

Ⅲ-2 分科会協議内容

第1回分科会(平成21年9月1日(火)15:30~16:30)

津山市役所2階 大会議室

- 1 開会(事務局)
- 2 会長挨拶
- 3 報告事項(同日開催の第2回協議会時にあわせて報告)

(1) 第1回協議会報告

(2) 経過報告

ア 国庫補助事業経過

イ 策定調査業務経過

- 4 協議事項

(1) 地域概況・将来都市像

(2) 公共交通現況・アンケート結果

(3) 問題点・課題の整理

(4) 基本方針

(5) 今後のスケジュール

以上については、同日開催の第2回協議会時にあわせて協議済み

(6) 分科会(全体会)

(事務局) 分科会、分科会分会について説明。

(委員) 分科会分会は市役所で行うのか。又は、支所で行うのか。

(事務局) 各支所を考えている。

(委員) 事前に資料は配布してもらいたい。

(事務局) 了解。

(委員) アンケートでは水曜日を対象としていたが、通院は、月、金曜日の方が多い。ほんとうに必要な人が回答していたのかということもある。

(事務局) 今回で完璧なものができるものではなく、今後も見直していくことも考えている。

(会長) 月、金曜日は通常と違った行動が多いということで統計的な面から水曜の調査となった。見直しというのは、プラスだけではなくマイナスもある。バスが必要であるということで少しでも乗るというを示してほしい。

(委員) 県南部は都市型の運行であるが、北部は補助金に頼らざるを得ない状況である。その中で人件費を大幅に下げ対応している状況である。

(会長) バスを維持するためには、行政・住民・運行業者ともに頑張っていかなければならない。

(委員) 路線バスを通せない道路があるときいたが、どうか。

(事務局) 具体例に対して対応していきたい。

(委員) 不定期な老人クラブの行事等にも対応できないか。

(事務局) 臨時便については難しい。

(委員) ほとんどの路線が赤字だが、行政からの支出はこれからどうなるのか。行政は体力的にどれくらいいけるのか。

(事務局) 今後財政状況は厳しくなる。なんとか現状の額を確保し、無駄を省いて便利にしていきたい。

(委員) バスだけの話なのか、他の公共交通手段もあると思うが。

(事務局) 市でできる対策としてはバスに限られるが、鉄道の存続は当然考えている。

(会長) 行政がバスを走らせるようになったのはここ10年で、その間、補助金をどうにかしてもってきている。

(委員) 病院、買物の足については、最低限のものをやってほしい。

(事務局) 自家用車のない人にとっては、死活問題であり、必要なものに手を入れて確保していきたい。

(会長) どこまでが行政がしなければならぬかはきちんと考えていかなければならないという意見である。

- 5 その他

- 6 閉会

1 開会
2 会長挨拶
3 報告事項

(1)第1回分科会以降の経過報告

4 協議事項

(1)分科会分会結果の全市的調整について

- (委員) 倭文地区のバス路線は西川線(チェリーバス)のみとなって福祉バスがなくなることだが、具体的にはダイヤモンドタクシーチケット方式とはどういうものか
- (事務局) 具体的には4月以降進めて詰めていきたい。ダイヤモンドタクシーチケット方式は福祉バスの廃止というよりは福祉バスがあまり使われていない地域に対して、定時定路線でいくよりは使いたいときに呼んで使ってもらおうほうがより使ってもらえるのではないかとこの観点から提案している。具体的には、前日に何時ごろの便を利用すると連絡すれば家の近くまで来てもらえるということ。
- (委員長) 久米から中心まで出て行くときの乗り換え拠点への接触はしているのか
- (事務局) バス事業者には前向きに検討を頂いている。しかし市の援助が必要。拠点の現地は確認している。鏡野町方向への拠点とも考えられる。商業施設へは本計画が定まっていないのでアプローチはしていない。ウエストランドは北面と南面にバス停はあるが、拡張は難しい。
- (委員長) 計画を作ったから店舗がそれに合わせるのではなく柔軟に話を進めてもらいたい
- (委員) 高校生、スクールバス廃止に伴う中学生の輸送、8時台の通院が同時にうまく行くのか。民間委託でうまくいくのか。
- (事務局) サービス水準にしているように最低ラインとして確保していく。
- (委員長) 運行委託のイメージは。
- (事務局) 現在の利用に支障がないことが前提。但し日中の利用がない時間帯は整理していきたい。
- (委員) 分会では奥津側への延伸を了解したが、全体でみると加茂のほうが近い。こちらで救済できないか。福祉バスが有料化になると利用がなくなるのではないか。
- (事務局) 奥津川は行政的には勝北となっている。起終点側なので支障はないと考えている。利用がなければダイヤモンド方式に切り替えていきたい。福祉バスの有料化には受益者負担の考えをご理解いただいたところである。
- (委員) ごんご久米線の提案は国道181号のみで短縮によって3~5往復、JRは12往復ある。合わせると17往復しかない。チェリーバスは4往復しかなく朝一便は学生で満員。地域でサービス格差がでるのは問題。地元におろしたときに理解が得られるのか不安。倭文地区から国道181号に路線を入れられないか。グラスハウスへのアクセスを福祉という考えから入れられないか。
- (事務局) JRを含めて考えるはいかがか。議会へは同時並行で進めてきたので地元の理解も得ていると考えている。ごんご久米線は戸脇までは使ってもらっていない。生活交通の確保という観点が必要だが、1人が使いたいからバスを走らせるという問題ではない。久米地区では以前はタクシーチケット方式を導入していたが、福祉バスに切り替えたものの利用が少ないためにこれに戻すという考え方。
- (委員長) 乗ってもいないバスを走らせても仕方がない。乗ってくれる運動をしてもらわないと維持はできない。バスを維持していくための補助も厳しく、バスがすべてなくなってしまうことも懸念されるなかでは、乗ってくれる人を最優先にすることはやむをえないのではないか。乗ってもらえるようにPRをしていかないといけない。
- (委員) 本当に乗りたい人の意見を聞いてもらいたい。グラスハウスに利用者を誘導する方法を政策的に考えてもらいたい。
- (委員長) 奥津川では今ないので走らせるが、乗らなったら廃止ということになる。グリーンヒルズを考慮する必要はないのか。グリーンヒルズとしての輸送計画はどうなっているのか。
- (事務局) グリーンヒルズへの以前は路線バスがあったが利用はほとんどなかった。自家用車利用が多い。現在もリージョンセンターまではバスが走っている。そこからピストンでという提案をグリーンヒルズにしている。
- (委員) 「阿波地域の一体化」という効率化の点から物見では河井付近で乗り継いでどうか。乗らないバスも多いため減便も考えていく必要がある。学校行事にバスが合わせて努力している。物見からの福祉バス利用は多い。地域にあった体系が必要ではないか。子供をすぐに親がマイカーで送るため路線バスを利用していない。
- (事務局) 倉見地区は別の方法で考えていきたい。加茂観光バスが学校行事に合わせて臨時便を出して頂いているのはよい慣習として継続していきたい。福祉バスに関して言えば加茂、勝北地域はよく利用して頂いているので当面は継続していきたい。但し有料化はご了解頂きたい。
- (事務局) 阿波を経由し物見を経由して病院に間に合わせるは無理。朝は現状で行きたい。昼は工夫の余地がある。
- (委員) 朝はそうなると思う。阿波バスが出た後、路線バスが出るということにならないか。
- (事務局) 無料のバスが残ることが最大の問題と考えている。
- (委員長) 朝、昼で形態を変えることが考えられる。
- (委員) 折り返し運行で問題になることはどのような点か。
- (事務局) 1台1人での運行をまかなっていたので便数が限られていた。空の支所間ごんごバスが旧市内を走っている。車両や人を増やせば問題ないが、1台1人を前提にせざるを得ないので、であればこの方法であれば便数を増やすことができるかどうかという提案。
- (委員長) マイナス点は乗継が発生することだろう。降りたときに次のバスが行ってしまっていることがないように乗継の時刻をうまく整理すればよいのではないか
- (事務局) 津山市としては循環ごんごバスはよくできていると思う。西の乗継も考えているが、循環線が少ないので増便の検討をお願いしたいと考えている。
- (委員長) ただ回るだけでなく、確実に乗継ができる体制をとってもらいたい。寒空の下で待つようなことがないように。
- (事務局) 現在、駅前前で時間調整しているが、これを中央病院でしようという見方もできる。
- (委員長) あまりピツリすると、渋滞で遅れたときにうまくいかなかったりする。駅前ともあわないといけません。検討してもらいたい。
- (事務局) 乗継については、市民の方が抵抗を感じる点と考える。検討していきたい。
- (委員長) 15分が時刻表を見なくても待てる限度。乗継は15分以内でできるようにダイヤ設定してもらいたい。
- (委員) 追分、坪井、千代との乗継を考えているがこれと連携していないので活用がしにくいという意見があった。チェリーバス

は津山市民が乗れないので考えてもらいたい。ごんご久米線は工業高校まで行き、さらに第一病院に行くので時間がかかるので利用しづらい。利用者がいないバスを見るとむなし。

利用者の安心を考えてもらいたい。乗継の際に、行き先を考えて乗るのは不安。行き先を明確にしてもらいたい。

(事務局) 一定の整理ができれば行き先を明確にする工夫をしたい。そのためにこの計画で単純なバス網体系を考えていきたい。今回の計画のいかに単純にするか、改善されたかというのは数値で示して行きたい。

チェリーはバス停以外での乗降は広域の協議会で検討したい。かめつちバスは美咲町が単独で走らせているので、利用できないということは理解頂きたい。

第一病院よりも中央病院ということだが、JRはバスよりも早い。このような利用方法の情報提供をしていきたい。

(委員) ごんご加茂線の回送便の有効活用はできないのか。

(事務局) 回送は補助基準にあげるため。回送を営業運行とすると平均乗車人員が下がる。

(委員長) 別系統とすることはできないのか

(事務局) できなくはないが、本当に利用があれば事業者は回送運行にしている。

(委員) 事業者として路線の組み方について反省している。

P10 支線とはどういう定義か。地域内循環とはどのようなものか。乗継の運賃をどのように考えているのか。フリー乗車券を発行することはどのように考えているのか。

(事務局) 幹線は合併地域を連絡する足の長い路線。支線とは地域内で完結する路線と考えて頂きたい。小循環線はP13に示している。中心市街地での空白地帯をカバーするイメージ。正規運賃をすべてに頂くことは抵抗があるためごんごバスを乗り継ぐ場合は、後のごんごバスを100円とするといったことも考えている。

(委員) 果たして公共交通とは？と考えることがある。今の利用者の層を考えると果たして民間事業者のやることか、福祉ではないのかと自答することがある。公共交通は公正、公平、効率であるべきと考える。中心市街地の活性化は重要な問題であるが、中心市街地はバス路線が非常に複雑となっている。中心市街地のバス路線を整理するこの計画に賛成である。循環ごんごバスはバスの復活という面で成功といえる。院庄循環、高田循環の他、欲をいえば北循環も含め充実させないと初めて乗り継ぎ拠点で止める意味がでてくる。郊外からのバスも同様。循環線の運行を増やして支所間バスとの連携を図って行きたい。行政の理解と協力をお願いしたい。支所間バスの増便は可能と考える。このために循環ごんごの増便を図って行きたい。さらに情報提供が重要。いい知恵があれば頂きたい。

(委員長) 循環の頻度はどのように考えているか。何をもって公平、公正というのかとは難しい問題。幹線と支線の違いは。

(委員) 幹線と支線の違いは何か。幹線といわれる行方線にごんごバスがある。久米町にはJRがあり、支線として支所間バスがある。このようななかで幹線とは、支線とは。幹線といわれるものは4条で運行されている。これと低運賃のコミュニティバスが競合している。事業者がこのような状況で、どのように存続していけばよいのか。鉄道があるところとそうでないところが果たして公平なのか

(事務局) どの1つが欠けてもうまくいかない、自治体によっては公共交通は福祉という考え方をしている市町村もある。津山市としては福祉という考え方は財政的にできない。広域的な路線については国に指導をお願いしている。

津山市として基本的な整理をしておいて、市内についてはわかりやすい路線としていきたい。北には過去の失敗もあるので慎重に取り組んで行きたい。効率化によって浮いた分を小循環に充てて行きたい。

(委員) 国からコミュニティバスの指針がでるとい話を聞いている。

(委員長) コミュニティバスは民間路線バスとしては成立しなくなっている。赤字覚悟でやっている中でどのように効率的に公平性を考えていくという本来、行政が考える必要がなかった難しい問題。事業者が撤退しないように利用者を集めるためにコミュニティバスがあるので支線というのはわかるが、地域内を走るから支線というのはどうか。

(委員) 通学と福祉と医療しか考えないのか。

(事務局) 観光は切り口が違う。生活交通を守ることを最優先としている。

(委員長) 定常的に10人、20人来れば考えられるが今のレベルを考えると無理

(委員) バスをどう使ってよいかわからない。相談所みたいなものがあるとよい。

(事務局) 今の交通政策課は2人でやっていて対応は難しい。そのようなものが無くてもわかりやすい体系にしていくのでもう少し待ってほしい。

(委員) 中鉄が久米を走っていた時はわかりやすかった。今はわかりにくい。津山市のバスを一元管理するシステムがあれば。

(事務局) 乗ってもらいたいという意識があれば問い合わせ先はあるべきだと思う。

(委員) 満足度がどのようになるかがポイント。

(委員) 老人クラブの会議が旧津山であるが大規模な会議では公用車をお願いしたい。

(事務局) 合併前はそのような対応もあったが、今は利用者の事故の問題もあってできない。

(2) 今後のスケジュール

異議なし

5 その他

(委員) バスの中に子供の絵を貼るなどして利用者を増やすような工夫はどうか。

(委員長) バスに子供が乗っていない。乗る仕組みを作ってもらいたい。

(委員) アンケートに地域の高齢者を使ってほしい。

6 閉会